つるさき

発行所
鶴崎神社
〒701-0304
早島町早島2220
TEL 482-0097
FAX 697-6067
URL
http://turusaki2.web.fc2.com/

平成27年神幸祭（佐藤豊行氏撮影）

「お守り」は受けるもの

毎年正月になると、大勢の方々が神社へ参拝されます。

拝殿で家族の安全などを祈念して、授与所でお札やお守りを受けて帰られますが、ここで「買う」という言葉と「受ける」と言う言葉が聞かれます。

新聞、テレビなどのマスコミが読者や視聴者に理解しにくいという理由から「買う」という表現を使いますが、この表現は適切ではありません。

神社で授与されているお札やお守りは全て神前で神様の御霊入れを行います。

そうする事によって、お札やお守りの形をした物品から、神霊が宿る神符へと変わって行き、一般の商品とは一線を画す事になるのです。

神符を受ける時に敬虔な気持ちになるのは、そこに神を尊び、その霊力を戴くという畏怖の心が潜在するからです。

従って、神社ではお札やお守りは「売る」とは言わず「授与する」と言います。

参拝者は、お札やお守りを「買う」のではなく「受ける」ものなのです。

安原伝兵衛物語

7

備後福山までは舟旅をした。福山からは芦田川沿いの街道を北上した。

旅して判ったのは、一年余り馬子をしていたので街道を往復して自然に健脚になっていたことだ。何ら得るものが無かったと悔しい思いをしたけれど得るものもあったのだ。快適な旅を続けられたのは、そのご褒美だと思った。芦田川は国境から瀬戸内海まで流れる大河だ。さかのぼるにつれて、流れは速く、底の小石まではっきり見える清流だ。流れは厳石を噛んで白い飛沫を上げてる。伝兵衛は川辺で水浴びをしたり、衣を洗って岩に張り付けて乾かす。それを待つ間、木陰で午睡をした。川面を渡る涼風が肌に心地よい。郷里の高梁川で遊んだ頃の童心にかえった。辛い旅を予想していたが、好天にも恵まれ、芦田川を巡る旅をすっかり楽しんだ。次は日本海に注ぐ大河、江の川とその上流の可愛川を目指して、しばらく深山を旅する。こんな深山にと驚くような処にも人家はある。また小さな村にもそれに見合う小さな神社やお寺がある。陽が沈むと、それらの軒先を借りて夜を過ごす。人里遠く離れた杣屋（そまや）ほど温かく迎えてくれた。無理して能書を語らずとも御師の恰好は効果を発揮した。

急峻な山と深い渓谷の間をくねくねと縫う山道を歩き続けた。山道で出会うのは杣人（そまびと）より野猿と鹿の方が多い。そうなると急に人里が恋しくなる。道はどんどん下り坂になり、突然視界がひらけた。向こうの山麓を流れる川は江の川の上流可愛川で、その先に三次（みよし）の町が見えてきた。三次まで来ると、石見銀山は指呼（しこ）の間に思えて、とうとう辿り着いたかと感慨にふけった。後に判るのだが、三次の先には最大の難所赤名峠があった。伝兵衛がそう思ったのも無理はない。距離の点では、ほぼ山を越していたから。

街角を歩いていると、焼魚の香ばしい匂いが食欲をそそった。匂いに誘われて近づくと、鮎の文字を染め抜いた小旗が翻っている。小さな川魚店の店先で串ざしの鮎が焼かれている。女主人だろうか、おかァぐらいの女がばたばたと団扇であおいでいる。

伝兵衛が店先で、鮎の焼けるのを観察していると、女主人が頭を下げて合掌した。伝兵衛はおかしな仕草に一瞬とまどった。（何てこったぁ、儂は御師（おし）の姿なんじゃ）

信心深い人は俄御師であっても信じてくれるのだ。おかァもおばァも信仰心が厚かった。

女主人は店内を指さして休んで行きなさいと言った。店は客に飲食させる構えではない。伝兵衛は上がり框（かまち）に腰かけた。焼きたての一串刺しの鮎が運ばれた。伝兵衛はひと口頬張ると思わず「こねぇに美味しい鮎は食べたことがない」と言った。頭から尻尾まですっかりたいらげた。もっと食べたい…伝兵衛は小銭の入った巾着を取り出して注文した。女主人は笑いながら注文に応じた。結局、大きな鮎三匹をたいらげてしまった。

「長旅のようだが何処から来なったの？それに随分若いのに御師になられたんだね」女主人が労わるように訊ねた。

「実は儂は俄御師なんで…でもこれには訳があって…」と正直に話はじめると、女主人は興味が湧くものだから次々と訊ねる。結局これまでのいきさつを洗（あら）い凌（ぎょう）い喋らされた。

「御師さんは十六歳かね…。うちの息子はその年齢で亡くなってしもうた。何だかお前さんを見ていると他人事じゃない気持ちになるよ。これから先、銀山なんかでどんな苦労があるやら。そうだ近くの鳳泉寺にお参りしたらいいわ。ご本尊の十一面観音さまはたいそうご利益があるからね。是非そうしなさいよ」

女主人が熱心に勧めてくれた。伝兵衛もその気になって支払いを済まそうとすると、代金を受けとらないと言う。押し問答の末、一串をまけてもらい、御札も受けとってもらって店を後にした。

神道Q&A

【質問】

神社のご本殿の屋根に付いている。千木（ちぎ）に二種類の形がありますが、それぞれどんな意味がありますか。

【答え】

檜皮葺（ひはだぶ）きや銅板葺（どうばんぶ）きの神社のご本殿の屋根には千木と鰹魚木（かつおぎ）が取り付けてありますが、瓦葺きの屋根にはありません。

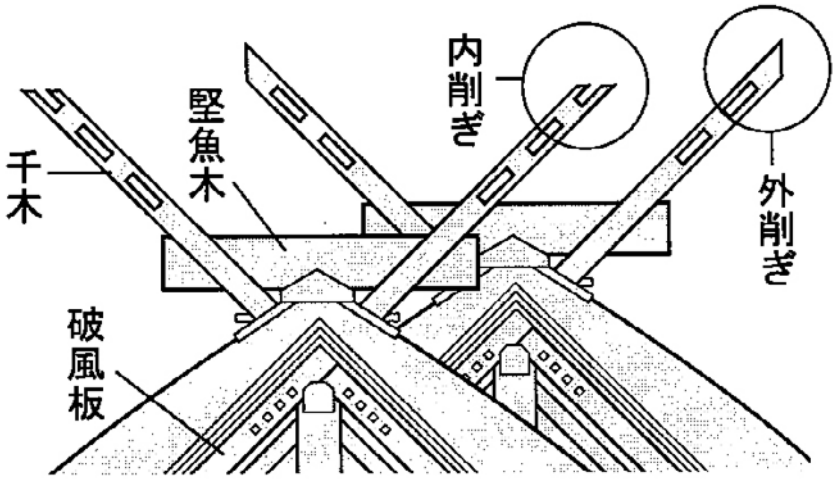
千木は古来、家屋を建てるのに木材を左右から交叉したのを結び留め、その先端をそのままにして切り捨てなかった遺風とされています。

しかし、現在では破風が伸びて交わったものではなく、棟上に装飾として置かれた置千木が殆どで、神社建築の神聖性を強調する意味が強くなっています。

通常、千木の先端は垂直（外削（そとそ）ぎ）または水平（内削（うちそ）ぎ）に切られております。

これは、伊勢神宮で男神を祀る豊受大神宮（外宮）の場合を外削ぎとし、女神を祀る皇大神宮（内宮）の場合を内削ぎとしているので、全国の神社がこの事例に倣っている例が多く見受けられます。

従って、ご本殿の千木の先端の切り方を見れば、ご祭神が概ね男神か女神か見分ける事ができます。



面額の奉納

当社前副総代長で倉敷市早高在住の安原益重氏から七月九日に面額が奉納された。

同氏は総代退任の記念にと、社殿建設時に宮大工から譲り受け保管していた桁（ヒバ材）の切り落としを、趣味の木彫で大黒・お多福・天狗の三面に見事に彫り上げ、色彩を施したものである。

奉納面額は拝殿正面に掲げている。

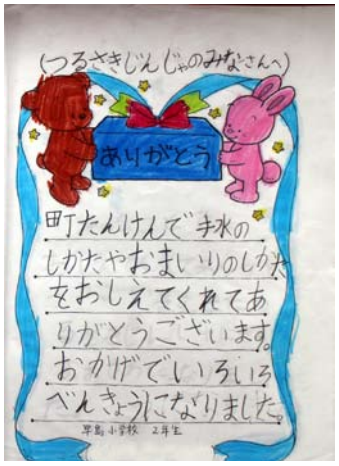
拝殿に掲げられた面額

小学生が神社を探検

早島小学校二年生の「町たんけん」が六月二十八日当社において実施された。

「町たんけん」は二年生の生活科の学習として「早島の町のことをもっと知ろう」「早島の人たちとなかよくなろう」を目標として行きたい所や見たい事などを考えながら学習を進めるもので、それぞれグループに分かれて、早島の施設を訪問した。

当社には十二名の児童と保護者が訪れ、参拝順序に従い、実際に手水を行ったり、拝殿で柏手を叩いて参拝を行った。また、狛犬や鳥居、神馬の由来などを熱心に聞きながら、メモを取る姿が見受けられた。



児童からの御礼の手紙

神幸祭に鬼面をかぶろう

早島の百鬼会毎年作って十余年

鶴崎神社の秋祭りに鬼面をかぶろう！を合言葉に、早島町中央公民館で切り出しナイフや筆、紙ヤスリを使って熱心に鬼面づくりをするグループがあります。〝早島の鬼を全国へ〟と張り切る町内のグループ「百鬼会」（佐藤智広代表）主催の鬼面づくり教室です。

秋祭りに、派手な赤い衣装に高下駄を履き、怖～い鬼面をかぶった赤鬼、青鬼が登場するのは昔からの町内の名物でした。昭和40年代に廃れましたが、復活させようと、平成15年ごろに教室を開講し、毎年4月から月2～3回、半年がかりで鬼面づくりに精出しています。会員を中心に7、8人から10人程度が参加。昨年は小学生も取り組みました。

鬼面づくりのベテラン大月定夫さん（75）＝前潟＝を先生役に、まず鬼のデザインを描き粘土を練って鬼面を成型、和紙を15回から20回ほど辛抱強く重ね張りします。平行して部品の角や牙、歯、髪を作ります。

面を乾燥させ裏面の粘土を取り去り、下地を塗ってから仕上げ塗りをします。

「色むらのないように均一に塗って」と、大月さんのアドバイスが飛びます。部品をしっかりと取り付け、目と鼻の穴を開けます。

最後に、顔に固定するバンドを付けます。間もなく完成ですが、和紙の重ね張り、シュロをネットに括り付ける髪づくりの根気のいるヤマ場を含め17の細かい作業工程を制覇すると苦労も吹き飛ぶそうです。

大月さんは「鬼のデザインは一人ずつみんな違うんで〝世界に一つだけの鬼〟ですよ」と自慢。豆まきや備中はやしま夏まつりにも出演依頼があります。

町内にはすでに鬼面を持っている人がたくさんいて、10月の秋祭りに佐藤会長は「去年は50人ぐらい。今年は100人ぐらい出動して祭りを盛り上げたいですねぇ」と出番を楽しみにしています。

吉備津神社から吉備津彦命を勧請した鶴崎神社は今年創建666年、秋祭りの神幸祭が始まって275年の節目の年です。鬼の歴史も200年以上と推測されます。近年、茶屋町の鬼も盛んになりましたが、鬼の元祖は吉備津神社の温羅（鬼）伝説にちなむ早島です。

（取材／鶴崎神社総代・佐藤豊行）

鶴崎神社の秋祭りに向けて鬼面づくりを急ぐ百鬼会のメンバー

祭事暦

十月十五日（土）
鶴崎神社秋季大祭【供膳祭】［午前十時］
八幡神社秋季大祭［午後七時］
（露店あり）

十月十六日（日）［午前九時］神幸祭

十一月中　七五三祈祷

十一月二十三日（水）［午後二時］
新穀感謝祭

一月二日（月）［午後二時］年始祭

毎月一日［午前九時］月次祭

※月次祭はどなたでも参列出来ますので、お誘い合わせご参拝下さい。

諸祈祷・出張祭の案内

当社では左記により随時ご奉仕致しております。

◆初宮詣・七五三詣・交通安全・厄除・九星災難消除・安産・家内安全・当病平癒・学業成就・その他

◆地鎮祭・上棟祭・家遷清祓・埋井祭・改装清祓・解体清祓宅神祭・神葬祭・霊祭等

ご希望の方は前もってご連絡下さい。